

基準 9 教育研究環境（施設設備、図書館、情報サービス、IT 環境等）

【9-1 教育目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。】

（1）9-1 の事実の説明（現状）

9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、付属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持運営されているか。

9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

本学には、大阪府東大阪市に位置する「小阪キャンパス」と奈良県香芝市に位置する「関屋キャンパス」があり、両キャンパスの建物配置、敷地・建物面積は、〈資料 9-1-1～2〉の通りである。〈資料 9-1-1〉

＜校地面積＞

小阪校地

区分	面積(m ²)
校舎・講堂・体育敷地	18,427
野外運動場	7,100
その他	50,190
計	75,717

関屋校地

区分	面積(m ²)
校舎・講堂・体育敷地	20,637
野外運動場	13,909
その他	21,152
計	55,698

＜校舎面積＞

小阪校舎

区分	面積(m ²)	室数	構 造
3・4・8号棟 (本館)	20,790	172	鉄筋コンクリート地下1階、 地上5階建
1・2号棟	7,133	55	鉄骨・鉄筋コンクリート地下 1階、地上8階建
9号棟 (図書館)	3,876	23	鉄筋コンクリート3階建
10号棟 (記念館)	855	7	木造2階建
7号棟 (会館)	1,000	2	鉄筋コンクリート2階建
5号棟 (体育館)	1,273	8	鉄筋コンクリート2階建
家政学実習館	1,301	15	木造2階建
6号棟 (樟古館)	124	1	木造平屋建
11号棟 (研修会館)	353	4	鉄筋コンクリート2階建
クラブハウス	98	7	鉄骨ブロック・木造平屋
学生寮	2,709	75	鉄筋コンクリート5階建
その他	68	3	
計	39,580	372	

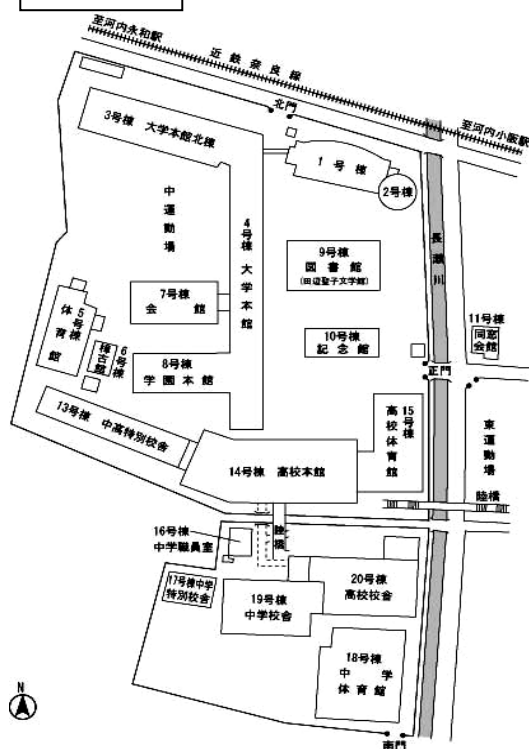
関屋校舎

区分	面積(m ²)	室数	構 造
1号館	2,181	40	鉄筋コンクリート2階建
2号館	5,078	51	鉄筋コンクリート2階建
3号館 (体育館)	1,479	15	鉄骨・鉄筋コンクリート2階 建
4号館	1,595	25	鉄筋コンクリート地下2階、 地上1階建
5号館	1,939	62	鉄筋コンクリート2階建
6号館	3,551	27	鉄骨・鉄筋コンクリート2階 建
7号館 (図書館)	2,850	15	鉄筋コンクリート地下1階、 地上2階建
8号館 (心理臨床相談室)	656	15	鉄筋コンクリート3階建
9号館 (学生ロッカー)	477	5	鉄骨造亜鉛メッキ鋼板 葺2階建
計	19,806	255	

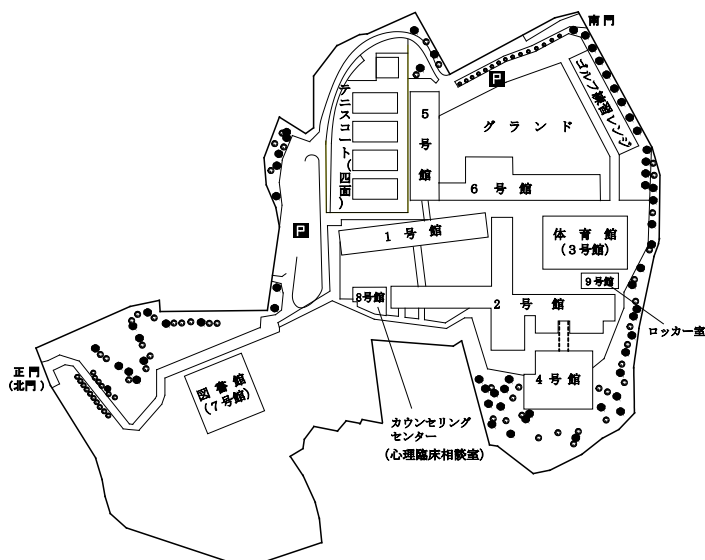
〈資料 9-1-2〉

大阪樟蔭女子大学校舎配置図
(小阪キャンパス・関屋キャンパス)

小阪キャンパス
校舎配置図



関屋キャンパス
校舎配置図



大学院を含めた在籍学生数は、平成 21(2009)年 5 月 1 日現在、小阪キャンパス 1,630 人・関屋キャンパス 852 人である。創立時より徐々に拡張してきたが、校舎・施設の老朽化及び学生及び社会の対応、大学改組に伴い改築・増設が進んでいる。関屋キャンパスについては、併設の短期大学部と共用になっている。また平成 19(2007)年度より小阪キャンパスに田辺聖子文学館が開設され、一般公開されて学生以外の地域の方々との連携を図っている。各施設については、下記の通りである。

○田辺聖子文学館

平成 19(2007)年 90 周年を迎えた本学園の記念行事の一環として、小阪キャンパスの図書館内に開設された。貴重な展示資料をはじめ、様々な企画展を随時開催している。気軽に田辺聖子氏の「人と文学」に触れていただくため、入場無料で一般開放をしている。平成 20(2008)年度の利用者は 10,055 人であった。(特記事項に記載)

○情報処理教育関係については、学内 LAN を運用しており、配下に各種サーバーを接続して高速ネットワーク環境を実現している。キャンパス全域でノートパソコンが快適に使用できるように無線 LAN アクセスポイントを設置し、学生が自由に学内ネットワークやインターネットに接続できる環境を整備している。小阪・関屋共、高度な情報処理教育のために、実習室を用意している。

教育用に設置したネットワーク上のファイルサーバーを利用することによって、学生への資料等の配布や、学生の課題提出をファイルでやり取りできる環境を築いている。

○図書館

図書館は両キャンパスに所有し、昭和 55(1980)年 3 月竣工の小阪キャンパス図書館の延床面積は 3,876 m²、閲覧室は 286 席あり、全学の収容定員に対する座席数の割合は 16.7% である。平成 13(2001)年 3 月竣工の関屋キャンパス図書館は延床面積 2,850 m²で閲覧室は 290 席あり、収容定員に対する割合は 17.3%になる。開館は小阪：平日 9：00～19：00、土曜 9：00～16：30、関屋：平日 9：30～19：30、土曜 9：30～16：30 としている。平成 20(2008)年度の利用状況は小阪：33,781 人、関屋：30,979 人であった。

両館とも情報環境が整備されており、学内 LAN、Web を利用して学外からも蔵書の検索が可能である。また Web で利用案内を提供し、地域への開放活動にも力を入れている。

○体育施設

昭和 44(1969)年竣工の小阪体育館と昭和 62(1987)年竣工の関屋体育館 2 棟がある。また両キャンパスにテニスコート（砂入り人工芝仕様、小阪キャンパス 5 面、関屋キャンパス 4 面）の設備を擁し、授業、クラブ活動等に活用している。なお、関屋キャンパスでは、地域住民へ日曜・祝日の貸し出しを可能としている。

○樟徳館

昭和 7(1932)年に創立者・森平蔵の私邸として建てられたもので、近代の和洋館らしい折衷様式の木造 2 階建てで、当時の技術の粋を集めた見事な普請で知られ、平成 12(2000)年 7 月に登録有形文化財に指定された。現在は、クラブ活動の合宿施設として利用されており、地域住民への公開も行っている。

○樟蔭寮

遠隔地出身学生のために、学生寮を小阪キャンパスから徒歩 15 分の場所に設置している。昭和 46(1970)年に建てられた現在の寮は全室個室で定員は 51 人であり、食堂や浴室も完備され、各フロアにはパソコン室があって、課題や練習などで自由に使用されている。

（２） ９－１ の自己評価

現状では、両キャンパス共、校地、校舎ともに設置基準上の環境を整えており、良好な状態に整備されている。平成 22(2010)年度を目処にしている、学芸学部改組に伴う施設の拡充、教室数の増強が当面の課題である。施設設備の整備にあたっては安全性・機能性の確保を考慮し整備を進めており、適切な教育環境の実施に努めている。昭和 24(1949)年の 3 号棟の完成以来 50 年が経過し、老朽化の進行と耐震基準の見直しなどから、一時的な補修ではなく抜本的改修に着手する時期に来ていると考えている。併設している中学・高等学校も含めて、本学学園全体の改修工事の中長期計画の検討が取り組むべき課題である。

（３） ９－１ の改善・向上方策（将来計画）

学部改組に伴い、施設設備の拡充が必須であり、事業計画を立て、平成 22(2010)年度にむけて作業工程を進めている。拡張・改修工事にあわせてインフラ整備を同時に行い、環境対策、冷暖房光熱費など固定費のコストダウンにつながるよう取り組んでいる。

【 9－2 施設設備の安全性が確保されていること。】

（1） 9－2 の事実の説明（現状）

9－2－① 施設設備の安全性（耐震性、バリアフリー等）が確保されているか。

建物の耐震性は建設当時の基準を満たしているが、近年の基準見直しに対応することが求められている。法令を遵守し、全体的な整備改修計画の中で計画的に対処している。

バリアフリー化への対応としては、小阪キャンパスでは、1号棟にエレベーター、障害者用トイレ2室、4号棟階段教室に車椅子用昇降装置を設置しており、関屋キャンパスでは6号館にエレベーター、5号館に障害者用トイレ2室を設置し、6号館入口・図書館入口・体育館入口はスロープにし車椅子に対応している。

内外のセキュリティ維持のため、両キャンパスとも門には警備員を常時配置し、外来者へは入校許可申請書の記入とネームホルダー装着を義務付けている。立地条件に配慮し、小阪キャンパスでは、夜間、校舎周囲に防犯センサーを起動させ侵入者を防ぐ。関屋キャンパスでは、防犯カメラを正門、南門に2台、事務所・研究室から死角になる2号館を中心に6台設置している。これらは、大学祭やオープンキャンパス等、学外者に開かれたイベントでの対策にも役立っている。

（2） 9－2 の自己評価

キャンパスのバリアフリー化は、徐々に改善されつつあるが、とくに関屋キャンパスでは立地条件、法令上対策が制限され、段差が多く車椅子の自由な移動は困難な状態である。法令の改定と建物の老朽化に伴い耐震化、改修・改善工事が必要な校舎、改組に伴い必要となる施設の設置等、課題は多い。財務状況を踏まえながら段階的計画を立案し、緊急度を評価しつつ進めていく必要がある。限られた資金の中で着手すべきものが山積みであるが、着実に是正し、障害のある人にも優しいキャンパス造りをめざさねばならない。

キャンパスの安全管理について、小阪キャンパスでは、施設設備の維持・管理は、管財課として専任職員が配置され、建築・設備等各分野の委託業者を管理しながら、日常及び定期の維持・管理・法定点検・保守を行っているが、関屋キャンパスでは、庶務課が所轄しており、専門的な知識や技術を持つ委託業者に任せている。このことによる問題はとくに生じていないが、両キャンパスの体制を検討・調整する必要があると考えられる。

（3） 9－2 の改善・向上方策（将来計画）

耐震性強化、バリアフリー化は、今後の改築・増設時にあわせて計画を進めていく。安全な施設こそが、より良い教育研究環境の前提である。厳しい財政であるが、現代社会の多様な学生、様々な来訪者に対応できる環境作り、維持・管理を今以上に強化する。

【9－3 アメニティに配慮した教育環境が整備されていること。】

（1）9－3の事実の説明（現状）

9－3－① 教育研究目的を達成するための、アメニティに配慮した教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

（小阪キャンパス）

東大阪市の閑静な住宅地にあり、大正・昭和の面影と近代的な設備がうまく融合され歴史と文化の環境が整備されて学びをより豊かにしている。多目的ホールは、コンサートや映像メディアにも対応し、学生の情操教育の場として利用される他、「開かれた大学」の象徴として市民セミナーや公開講座の会場として広く活用され、地域社会との連携を深めている。登録有形文化財である樟古館・記念館・樟徳館はクラシックで潇洒な美しい建築物である。樟古館・記念館は教室として日常的に使用されている。学生食堂は1号棟1階にあり、昼休み以外にも解放され学生の交流の場となっている。同じ棟の地下1階には学生ラウンジが設置され、食後の休息をとる学生や課題に取り組む学生のためのスペースとなっている。また緑化計画も進められている。

（関屋キャンパス）

豊かな自然環境にある関屋キャンパスは、“人にやさしい空間”をコンセプトにしている。学生サロンには沖縄畳を敷いた一角を設けくつろぎの空間を提供している。ここには無線LAN環境、プリンタを設置し、レポートの作成やグループ学習、学生の活発な交流の場として利用されている。学生サロン以外に学生ラウンジが2か所あり、学生生活を彩るスペースの数々にいたるまで、居心地のよさ、快適さが大切に考えられている。図書館内には、AV資料を十分に堪能できるシアタールームが設置されている。

（2）9－3の自己評価

両キャンパスとも内外の清掃、メンテナンス等が適切に行われており、アメニティに配慮した清潔、かつ快適な教育環境が整備されている。しかし、学生にとって重要な空間である学生食堂については、学生数に対応できる座席数の確保・拡張が課題である。関屋キャンパスについては、周囲は閑静な住宅街のため学生街の形成が期待できず、学内に「充実した購買部」や「学生のニーズにこたえる食堂メニュー」などの環境作りが必要である。

（3）9－3の改善・向上方策（将来計画）

小阪キャンパスでは、改組に伴う学科数の増加により、教室・実習室・休憩場所等、効率よく稼働できるよう対策を練る組織「キャンパス有効利用検討ワーキング・グループ」が平成18(2006)年に設置され、今後のアメニティの維持向上に取り組むものとしている。

【基準9の自己評価】

教育研究活動の基盤となる環境については法令に従い整備され、適切に維持、運営されていると評価できる。学生、教職員の利用、さらに地域への開放による学外者利用も進んでおり、有効に利用されているといえる。一方で施設の老朽化や基準の変更による改修の必要性も生じており、財政状況をにらみながら対応していく必要がある。アメニティへの配慮もキャンパスの立地条件、地域特性を考慮して進められているが、費用対効果の面で評価されにくい分野でもあり、学生の要求・期待水準も変化するので持続的な見直しと対応が求められる。

【基準9の改善・向上方策（将来計画）】

教育研究環境の整備にはこれでよし、という到達点がない。現時点で水準を満たしているとしても、時間の経過や社会情勢の変化によって改善を求められることは十分に予測すべきである。とくに、安全と健康的な環境の維持には組織、制度を含めた全学的な対応が必要である。

本学は中長期的な整備・改修計画案を管財課を中心に策定し、制度的、財政的な裏づけを確保しながら、それに従って着実に改善を進めていくものとする。